

高雄日本人学校の風

校長 高口和治

日本人会の忘年会すごいですね。何がすごかって、日本人学校の中学部生徒がほとんどでずっぱりでした。感謝です。吹奏楽に太鼓に踊りという豪華メニューでした。土曜日は朝8時半から踊りの練習、そのあと、吹奏楽、さらに、昼頃に楽器の搬出と12時間の動きでした。あまり目立たなかったでしょうが、安城先生と中島先生もご飯抜きでずーっと動いていました。あとで聞いたら中学部の何人かも「たべられなかったああああ」と話していました。私の席では、交流協会所長も日本人会会長もすごく感心していました。

別の会でもやってもらえないかとまで話をいただきました。

12月13日(火)

P T A役員会がありました。本当にP T A祭りありがとうございました。さらに、来年度の執行委員選びの経過の報告がありました。

12月14日(水)

午前授業も3日目。午後の中庭はすっかり遊び場になっています。日本でも砂とまみれて遊ぶなんていう機会は、わざわざつくらないとできません。台湾での私たちの生活はなおさらです。高雄日本人学校の砂場は大活躍です。「温泉を掘るぞ」とか「島をつくるのだ」とか、楽しそうな声が響いています。

12月16日(金)

台南芸術大学のコンサートが開催されました。台南芸術大学は大変有名だと聞いています。学内選抜があり、その後、台湾で何カ所かのコンサートを開催しているということです。みなさんプロを目指しているという話を聞いています。(演奏会前にかいたもので)

明日は、もちつき大会です。何人かのお父様と夜の会でご一緒したら、「声をかけてください。もちつきますよ!!!」ありがとうございます。準備の段階からボランティアを申し出てくださいっている方以外にも明日よろしく願います。子どもにもつかせますので、その加減は適度をお願いします。

中田教諭について：別紙お便りを配布いたしました。本当にご迷惑をおかけしました。中田と休み中は連絡を取っていましたが、気がせいっていたようです。様々なところから、心配やら励まし等の暖かな声をかけていただきありがとうございます。12月20日から復帰です。

本を紹介します

勉強法が変わる本』心理学からのアドバイス

市川伸一著岩波ジュニア新書

著者の市川先生は、学力低下が叫ばれて、国として学力を上げるための方策を練っていたときの主になった学者の一人です。今年度は小学校で、来年度から中学校で完全実施される学習指導要領改訂は、学力低下の解決策として国が強力にすすめている中心的なことです。それまでは、考えて考えて、まとめるという授業スタイルが主だったのですが、この先生の影響で「必要な知識は教えて、その上で考えさせよ」というスタイルに日本の授業が一般的になってきました。(が、また、これを曲げて解釈して、知識だけを詰め込む授業スタイルの先生も復活してきたのも否めません。)

p 1 1

頭がいいのに、上級生になるほど成績が落ちるのはなぜか(友達の例で説明)

教科書や参考書に書き込みをしたりするのは、美しくないからいやだという。難しい問題に出会ったとき、自分の力で試行錯誤しながら解いてみるというよりは、教師の説明するきれいな解き方を写して納得しているだけのように見えた。要するに、マメに手を動かしながら考えるということができなかった(しなかった)のだ。これでは、いずれ限界が来てしまう。勉強というのは「知能」だけでもないし、「努力」だけでもない、学習や思考のスキルの的なものが大きいことを、あらためて感じてしまう。

(高口が考えるに、30年も教員をしていると、あれほど頭がよかったのにな、という子どもが大学さえもあやしいことになっている場合もあります。あまり、すっきり考えはしなかったけど、地道にやっていた子どもがその後活躍している場合も多いのです)

p 1 7

漢字圏の国民の特徴的な空書行動

机の上や空中に、指で文字を書く動作を空書というが、これは、漢字圏の国民に特徴的な行動である。例えば、「日」が3つでどんな漢字ができるか、というような問題を出されると、日本人なら空書を行って考えてから「晶」という答えを出すという人がほとんどである。こんな行動は、欧米人にはまず見られないらしい。漢字という複雑な文字をたくさん使う民族では、手の運動的な感覚を利用して覚えるという方法が、伝統的に有効なものとして使われているのである。(高口・アメリカ視察をしたとき、単語を覚える授業をしていました。確かに、空書でなく声に出していて、違和感を覚えました。私はとにかく書いて覚えました。ボールペンの減りを楽しみにしていました。が、息子は、目でじーじーと見ていると頭に焼き付くようです。娘は私と同じく書いて書いて時間をかけて覚えています。)